

メディアリテラシーって知っていますか？ ～メディアはいつも「これが当たり前」とささやく～

「メディアリテラシー」とは、メディアの情報を主体的に読み取る力のことです。テレビなどで紹介される人物たちをあくまでも「その人の話」として読み、「あるべき姿」と思い込まない力が必要となります。



～メディアによる思い込みの連鎖～

①より多くの人の共感を得るため、
「多数派」を描く。

例：女性は家事、男性は仕事だから …
『主婦』が大喜び！野菜が値下がり！
賃金値下げで世の『お父さん』がピンチ！

②多数派は何度も繰り返し登場するので、人々
は「これが当たり前」「あるべき姿」と思う。

例：女性が家事をする様子が繰り返し登場。
トップに就くときは特別なこととして紹介。
※性別を頭に。「女社長」「女医」

④今まで多数派ではなかった人たちが新たに
多数派に入るので、より多数派になる。

メディアが描くものが、男女のあり方となり、その影響で自分らしい選択が阻害されてしまう。

③多くの人々は「あるべき姿」になろうとする。
又は自分の「当たり前」を押しつける。

例：「お母さん、ごはんまだ？」
「育休が取りたい？男が何考えてるんだ！」

「当たり前」に邪魔されない！

「メディアリテラシー」を身につければ、メディアが「当たり前」や「ジェンダー」を作っていることを読み解くことができ、結果それに影響されにくくなります。

そのため自分の考えも相手の考えも尊重できるようになり、自分らしい選択ができたり、より良い人間関係を築く事にもつながります。

気付いていますか？あなた自身もメディアの一部です。



女性を指導するカッコいい男性のイラストばかり使われているけど…



その逆だってあり得るよね！

問合せ／市民協働推進課 平和・男女共同係 ☎893-4411 内線421

学び、ふれあい、感じる実践の場

めぶき☆ふくふく情報



問合せ先

人育成交流センターめぶき
(開館 月・土・祝日を除く)
宜野湾市志真志1丁目15番22号
電話 896-11215



エレナ・ファヴィツリナ
フランチェスカ・カヴァツロ・著
「大人になったら何になりたい？どんな風に生きていきたい？」自分の力を信じて道を切り開いた100人の女の子の本当のお話。

世界を変えた100人の女の子の物語

子どもたちが誘拐や性犯罪被害にあわないようにどうやって自分の身を守ればいいのか、いざというとき危険な状態から逃げる方法を学べる絵本。大人として子どもを守るために一緒にぜひ読んで話し合ってみよう！



ベティ・ボガホルド・著

とにかくさげんでにげるんだ



毎年ふくふく講座で講師をしていただいてる思春期保健相談士の徳永さんの新聞連載が本になりました。子ども達の目線に思いつくココロとカラダの疑問質問に温かく答えます。

ココロカラダ不思議つながり

徳永桂子・著

親子に
おすすめの新しい本が入りました

人育成交流センターめぶきには図書情報コーナーがあります。主に男女共同参画に関する書籍を所蔵し、閲覧や貸し出しを行っています。交流スペースでゆっくり過ごせる椅子やテーブルもご用意しておりますので是非活用ください。(※図書館の貸出しは、平日の9時～17時です。)

めぶき図書の紹介

